

2023年7月9日

「まことの幸い」

使徒言行録 20:25-35

竹島 敏牧師

『受けるよりは与える方が幸いである』。エルサレムへ旅立つ前に、もう二度と会えないであろうとの並々ならぬ決意の下、エフェソの教会の長老たちにパウロが語ったイエスご自身の言葉は、福音書には記されていません。ルカ6章38節にイエスご自身の解釈があるのみです。しかしこの言葉を実践してきたパウロは、あなた方を造り上げる言葉、恵みを受け継がせる言葉として、神とこの言葉にあなた方を委ねる、と最後に言い残しています。

人は誰でも、与えることよりも受けることの方に関心が向いてしまいがちです。そして関心の比重が「受けること」の方に傾きすぎると、争いも増えてくるものです。この言葉は、本来受けるべき分を取奪されている人たちに目を向け、そのような状況がどうすれば是正されるのかを考え、実践していくことを促している言葉でもあると思うのです。そして争いの最たるものは戦争です。そのとき国家は戦闘員に、相手国民は「人間ではない」という思い込みをさせると、ある元海兵隊員は言います。しかし彼は戦闘のさなかに期せずして、自分の両手に新しい命を抱きとめた瞬間に、この命も自分の命と等しく尊いことを実感し、目が覚めたと言います。

すべての人が神から同じように愛されてこの世に送り出され、同じように恵みを与えられるはずなのです。そしてパウロが委ねた人たちと同じように、私たちもまた、「神とその恵みの言葉」に委ねられているのです。命の主、イエス・キリストの「受けるよりは与える方が幸いである。」という言葉を思い起こして目を覚まし、それぞれの仕方でのこの主の言葉に従い、まことの平和を求めて導かれてゆくことができますように。